

## ■ その他の研究業績

No.1

「団塊世代の定年後就労に関する意識調査」の作成

京都地域労使就職支援機構(厚生労働省委託事業)

2006年12月

指導教授であった久本憲夫教授の指導の下、報告書「団塊世代の定年後就労に関する意識調査」の作成に関わった。この時期は高年齢者雇用促進法の改正によって、企業が65歳までの継続雇用への対応を求められた時期であった。この調査では労働者に対する意識アンケートを行い、その集計結果から図表を作成し、考察を行った。

No.2

新教出版社「TPPと教会論」を寄稿

新教出版社『福音と世界』2013年6月号

2013年5月

「教会とは誰か」という特集の中で「現代日本において、キリスト教会の存在理由」という企画趣旨で原稿の依頼があり、寄稿した。この文章ではヨーロッパにおけるキリスト教民主主義、明治時代の日本におけるキリスト教社会主義について紹介した後、TPP（包括的経済連携協定）の経緯、意義について述べた。

## ■ 教育業績

No.1

「大学院生のための教育実践講座(Basic)」

京都大学FD研究検討委員会

2011年8月4日

この実践講座は、将来、大学教育に携わりたいことを希望している京都大学の大学院生（PD、研修員などを含む）のために、ファカルティ（大学教員）へと自己形成していくきっかけとなる場を提供するものである。実践講座の各プログラムの全てに参加したことで、京都大学総長から修了証（Basic）が授与された。

No.2

「大学院生のための教育実践講座(Advance)」

京都大学FD研究検討委員会

2012年8月7日

この実践講座は、将来、大学教育に携わりたいことを希望している京都大学の大学院生（PD、研修員などを含む）のために、ファカルティ（大学教員）へと自己形成していくきっかけとなる場を提供するものである。実践講座の各プログラムの全てに参加したことで、京都大学総長から修了証（Advance）が授与された。

No.3

「労働市場論」

同志社大学社会学部

2012年度以降

前期の「労働市場論1」では小崎他[2011]『キャリアと労働の経済学』（日本評論社）をテキストとし、労働経済学の基礎と日本の労働市場について講義を行っている。後期の「労働市場論2」では、女性、若者、高齢者などに関わる労働問題を取りあげている。その際、背後にある経済的なメカニズムを受講者が理解できるよう、講義を行っている。毎回の講義終了後に、受講生に講義の感想・質問を記入させ、次回の講義でそれについてリプライを行うことで、受講生の理解がより深まるようにしている。

No.4

「産業関係文献演習」

同志社大学社会学部

2012年度以降

2回生の学生を相手に基礎論文の作成指導を行っている。前期の前半は戸田山和久[2012]『新版論文の教室』（NHK出版）を輪読して、論文やレポートの書き方を学ばせている。後半は労働問題に関する文献を輪読し、専門分野の知識の習得に努める。後期は各自の研究報告を行わせ、年度末に「基礎論文」を提出させる。履修者の中で最も優れた論文を書いたものは「優秀論文」という形で表彰する。

No.5 01 - 02

「現代の福祉問題」

立命館大学政策科学部

2012年度以降

少子高齢化、ワークライフバランス、公的年金制度、介護保険、障がい者、児童虐待といった福祉問題について講義を行っている。毎回の講義終了後に、受講生に講義の感想・質問を記入させ、次回の講義でそれについてリプライを行うことで、受講生の理解がより深まるようにしている。